当院における麻痺手の練習量増加に向けた取り組み
～ReoGo-Jを用いて～

医療法人社団　生和会　周南リハビリテーション病院[1)]
四元恵太[1)]　佐々木菜摘[1)]　中村優花[1)]　御書正宏[1)]

【はじめに】

当院では上肢運動障害の練習量増加を目的とし

ロボット（ＲｅｏＧｏ－Ｊ）を導入

対象者の運動麻痺の練習量を増加させるため

ＲｅｏＧｏ－Ｊ班を立ち上げた.

当院での麻痺手の練習量増加に向けた取り組みと現状を報告する.

【方法】

主な活動内容

①スタッフへの指導

機器使用時のOJT

②ミーティング

対象者の選定や使用状況の確認

③自主トレーニング（以下自主トレ）へ移行するための運用マニュアルの作成等

自主訓練へ移行について

【自主訓練へ移行できる患者の対象】

・院内の移動自立
・椅子への移乗動作が自立
・リモコン操作が可能
・リスク管理が行える
・高次脳機能障害や認知面に問題がない
・困った時に助けを求めることが出来る
・リハビリスタッフ、病院スタッフの指示に従うことが出来る

【自主訓練移行時の注意点】

・担当セラピストが上記項目について評価を行ない主治医へ報告し主治医許可の下、自主訓練へ移行する

・機器操作、PC操作は基本的にセラピストが行う
→高次脳機能、認知機能面に問題なく機器の操作が可能な方は行ってよい
→自主トレを行うタイミングはリハビリ後または時間固定にて実施
→セラピストは練習内容を保存した患者キーを準備
→患者キーには患者様の名前を添付する

自主練習の為の自立度チェックリスト

評価日：　年　月　日　｜ 1人で実施可 ｜ 見守り ｜ 実施困難

安全管理			
訓練中安全な座位姿勢が保たれている			
困った時に助けを求めることが出来る			
代替手段（例等：　）			
評価			
カセットの差し替えが出来る			
足台の準備・位置修正			
安全に移乗が出来る			
操作			
手の固定ベルトの着脱が行える			
アームに過負荷を掛けないよう操作できる			
モニターに提示される指示に準ずることが出来る			
手順書を使用して操作が行える			
矢印に沿った方向に押すことが出来ている			
備考			

自主練習の為の自立度チェックリスト

評価日：　年　月　日　｜ 1人で実施可 ｜ 見守り ｜ 実施困難

安全管理			
訓練中安全な座位姿勢が保たれている			
困った時に助けを求めることが出来る			
代替手段（例等：　）			
評価			
カセットの差し替えが出来る			
足台の準備・位置修正			
安全に移乗が出来る			
操作			
手の固定ベルトの着脱が行える			
アームに過負荷を掛けないよう操作できる			
モニターに提示される指示に準ずることが出来る			
手順書を使用して操作が行える			
矢印に沿った方向に押すことが出来ている			
備考			

※安全管理項目は1人で実施出なければ自主練習は不可。その他は声掛けで行えても自主練習可能。
※チェックに関しては1人もしくは2人で行う。

<リモコン操作方法>

①セッションの更新をしますか？
×：いいえ
↓
②可動域の調整をしますか？
×：いいえ
↓
③セッションを開始しますか？
✓：はい
↓
▷：開始
↓
④可動域の調整を行いますか？
×：いいえ
↓
⑤終了：『お疲れ様でした』
↓
▷：次へ

⑥繰り返し

【結果①】ＲｅｏＧｏ－Ｊの実施数と運動量増加機器加算算定の現状

2020年4月～2021年3月 実施者数：10名	運動量増加機器加算 2850点
2021年4月～2022年3月 実施者数：15名	運動量増加機器加算 3300点
2022年4月～2023年3月 実施者数：14名	運動量増加機器加算 3600点

※2023年4月～9月時点

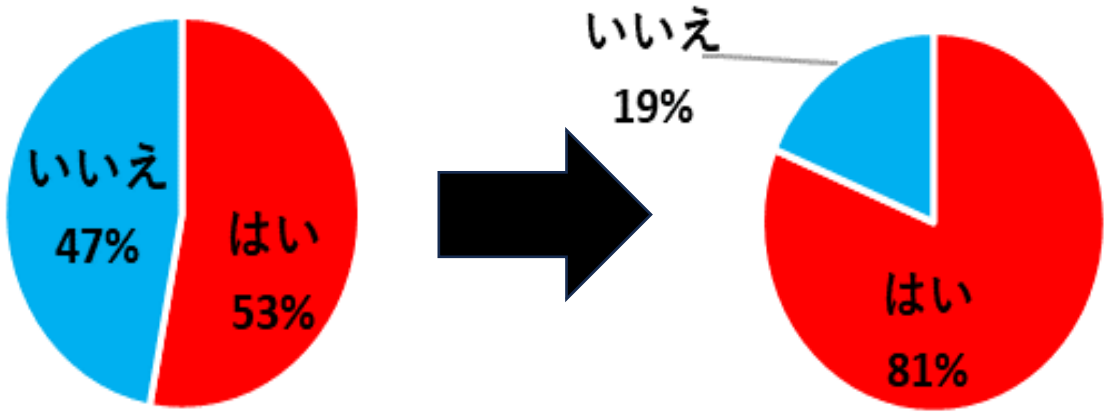
実施者数：**11**名　　運動量増加機器加算：**2850**点

【結果②】

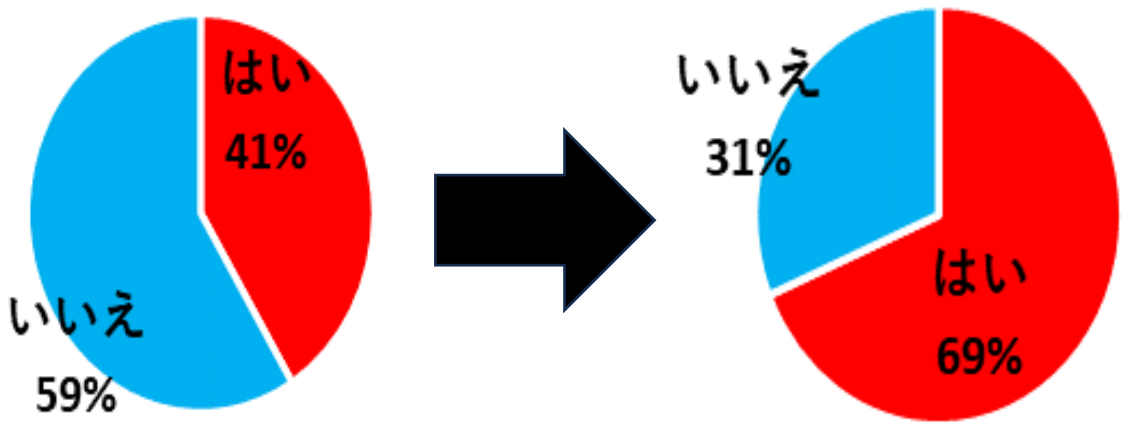
リハビリテーション部の作業療法士（26名）に対してのアンケート

（2019年→2023年）

1. 今までリハビリの訓練でReoGo-Jを使ったことがありますか？



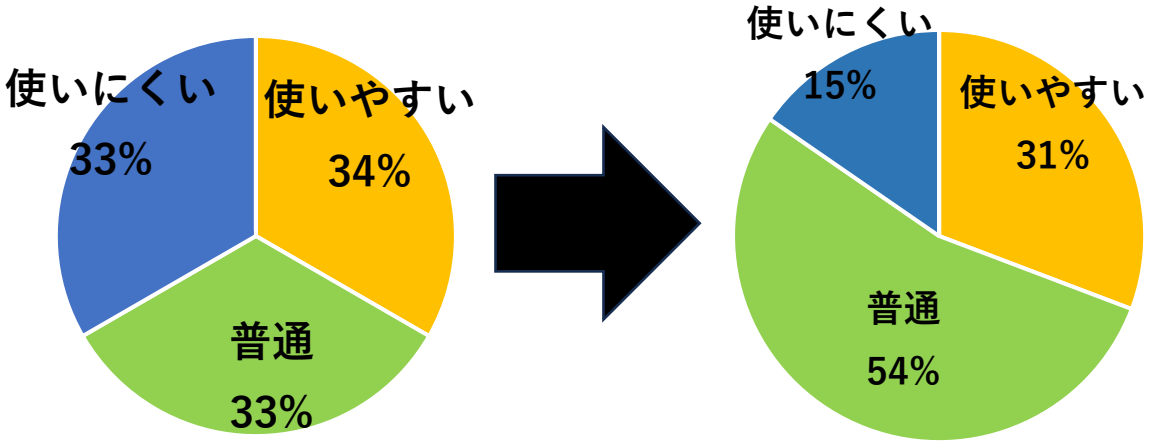
2. ReoGo-Jを自身の担当患者に使用したことはありますか？



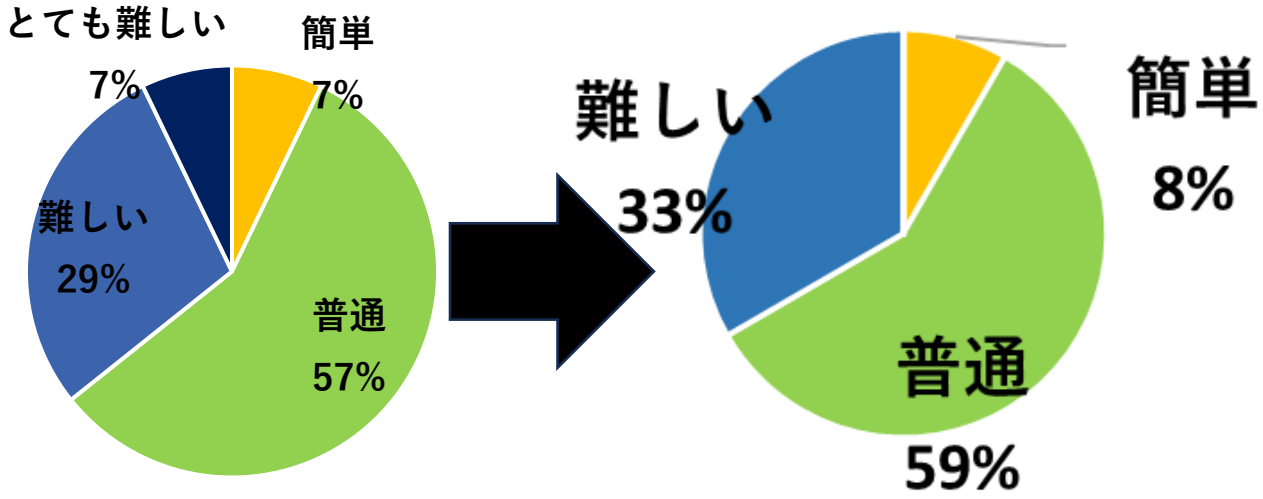
2019年と比較して使用経験のあるスタッフは**増加**

【結果③】

3. ReoGo-Jを使用して使いづらいと感じたことはありますか？



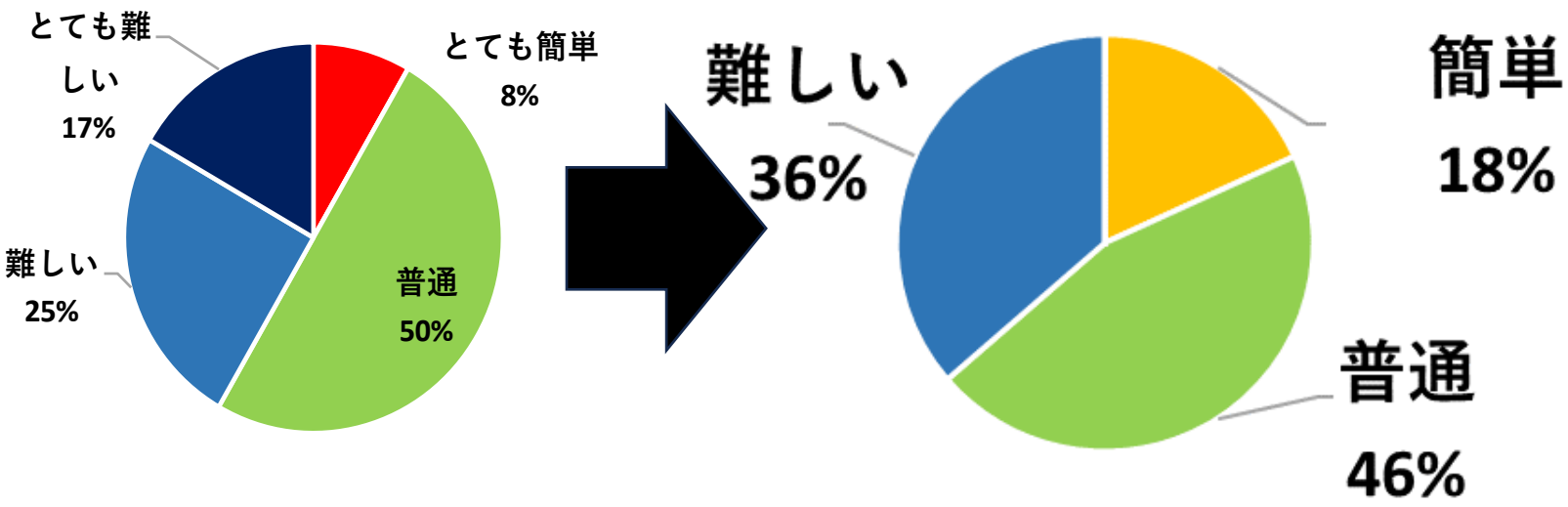
4. ReoGo-Jの適応となる対象患者の選択が難しいと感じる



2019年と比較して「使いにくい」、「とても難しい」と感じるスタッフは**減少**

【結果④】

5. ReoGo-Jを使用しフィードバックを行う際に難しいと感じる



2019年と比較して「難しい」、「とても難しい」と感じるスタッフは**減少**

【考察と今後の課題】

スタッフのＲｅｏＧｏ－Ｊに対するスタッフの知識や技術は向上している.

ＲｅｏＧｏ－Ｊの適応となる対象者は増加傾向.

自主トレーニングとして実施出来た対象者は少ない.

患者層対象となる患者が少ない事や，ＲｅｏＧｏ－Ｊの機器操作や準備に慣れる前に,ＡＤＬ練習等に移行してしまう対象者が多かった事が考えられる.

今後の課題としてＡＤＬ介助であっても使用しやすい環境の調整や,院外に発信することでより多くの対象者が入院してくるような働きかけが必要.

リハビリテーション・ケア合同研究大会 ＣＯＩ開示

筆頭発表者名：四元　恵太

演題発表に関連し、発表者らに開示すべき COI関係にある
企業などはありません。